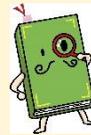


家庭教育学級

令和6年度
第2号



だより



R06. 10. 24



編集：札幌市教育委員会 家庭教育学級担当

日に日に秋が深まってきており、家庭教育学級の活動も年度の折り返しの時期になりました。後半の活動も充実した内容になるようご協力のほど、どうぞよろしく申し上げます。

★見学させていただいた学習会をご紹介します★

◎ 7月12日 「せいめいのもり」の学習の様子です！



発達凸凹応援団ワン・シードの富樫ちはる先生による第1回学習会を見学させていただきました。前半のテーマは、「パパ・ママの怒りを7割減らす5つの秘訣」で、はじめに富樫先生から「子育てたいへんだわと感じている方、子どもがやらかすという方は？」という問いかけがあり、多くの手が挙がっていました。良くやらかすというお子さんでも、親を困らせるためにやっているわけではなく、行動には理由があるといいます。

富樫先生には、やらかしてしまう理由について、事例を挙げて具体的にご説明いただきました。一つの例として、「ファミレスでの待ち時間が暇だった。レジ前でおもちゃを買ってと騒ぐと、親が『今回だけだよ』と言って買ってくれた。」というものが挙げられましたが、子どもが見ているのはおもちゃを買ってくれたという結果のみで、『今回だけだよ』と伝えた部分は抜け落ちており、行動のあとに良いことがあると、その行動は繰り返されると教えていただきました。大人にしてみれば間違った認識ですが、子どもにとっては当たり前の反応であり、親と子どもの認識には大きなずれがあるということが理解できました。

後半のテーマは、「今日から使える！子どもの褒めポイントの見つけ方」でした。子どもを褒めるときには、子どもがすでに持っているものや存在そのものを認める表現を意識すると良く、着替えなどの自分のための行動も見逃さずに褒めてあげると良いと教えていただきました。「褒める」というのは、おだてたり、お世辞を言ったりすることではなく、子どもの良い行動に気が付いているというのを知らせてあげることというお話が印象に残っています。子どもに注目して、今できていることや、ありのままを褒めてあげることで、親子関係が良好になり、子どもの自己肯定感も上がっていくと学びました。

質疑応答の時間には、多くの手が挙がり、学級生の日常の悩み事について一つ一つ丁寧に答えていただきました。富樫先生の話聞き、子どもへの対応や声掛けを見つめ直すきっかけになった方も多かったのではないのでしょうか。



◎ 9月2日 「北小学校」の学習の様子です！

テーマ 『現代の性教育はすごい！～子どもの幸せな未来を作る親になろう～』
講師 助産院KOKOROMUSUBI 鶴ヶ崎 理恵 先生



「どのような性教育を受けてきましたか。」「恥ずかしい、戸惑った経験はありませんか。」という鶴ヶ崎先生の問いかけから講座が始まりました。子どもにどのように伝えたらいいかわからない、性について伝えることに抵抗感があるという方も多いのではないかと思います。鶴ヶ崎先生には、これまで行ってきた講座や子育ての経験の中で、実際にあった子どもたちの疑問や反応などを紹介しながら、分かりやすく丁寧にお話しいただきました。

現代の子どもたちは、性に関する情報をネットから得るため、友達同士で話すことが減っており、誤った知識が修正されにくい環境にあるといえます。だからこそ、性教育を学ぶ機会の提供が必要であり、生殖に関する知識を身に付けさせるだけではなく、自分や相手をどうやって大切にするか、人としてどうあるべきかなど、知識を生かすスキルや望ましい態度まで含めて学ぶことが大切だと分かりました。

また、子どもが性的な質問をしてきた時には、はぐらかさず、科学的に当たり前だというスタンスで答えると良いといえます。話したくないことは話したくない理由を伝える、人間ではなく動物や植物の話をする、本を活用するという方法も有効だと教えていただきました。

講座の中では、学級生の皆さんがメモ用紙に記載した質問にもお答えいただき、具体的なアドバイスをいただきました。普段なかなか相談しにくい性に関するお悩みの回答をいただけたことで、気持ちが楽になったという方も多かったのではないかと思います。



◎ 9月4日 「山の手南小学校」の学習の様子です！

テーマ 『賢い子に育つ！お小遣いの与え方』
講師 ファイナンシャル・プランナーCFP® 横井 規子 先生



キャッシュレス化が進む中で、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、親のクレジットカードを不正利用した多額のゲーム課金など、子どもが金銭トラブルを起こす事例が増加しているといえます。

子どもの金銭管理能力を育てるためには、数字と量が一致する現金でのお小遣い制を利用して、お金の慣れていくと良いということで、「お小遣いの金額はどのように決めたらいいのかわからない」「いつから始めるのがよいか」など、子育ての経験も交えながら、横井先生に具体的に分かりやすく解説していただきました。

まず、お小遣いで買える物のおおよその範囲などルールを決めること、簡単に追加のお金を渡さないことなど、お小遣い制のポイントを教えていただき、ちょっときついなと感じるくらいの金額にすると良いとアドバイスがありました。制限があるからこそ子どもは考えるようになり、失敗をすることで学んでいくといえます。親がお金を出す場合でも、子どもと一緒に買い物をして子ども自身に選択させることで、同じ商品でも値段が違うことや、安い時期があることなどの気づきがあり、体験を積むことで自ずと学んでいくと教えていただきました。ほかにも、「お小遣いの増額をねだられたら」「高額商品を欲しがったら」「お年玉ってどうしているの？」など、保護者から質問されることの多いお悩みについてアドバイスをいただき、とても参考になりました。



◎ 9月6日 「新陵小学校」の学習の様子です！

テーマ 『性の健康教育 大人のための講座 基礎編 からだの科学』
講師 NPOピーチハウス 佐藤 千鶴 先生 齋藤 寛子 先生

まず、佐藤先生より「『からだの科学』は、性被害に合うこと、加害者になること、性感染症、望まぬ妊娠などからの予防プログラムであり、子どもたちが生きるための教育です。」とお話がありました。性教育は、自分を大切にして自分を守る力を育てるために行うものだと思います。

講座の中では、NPO ピーチハウスが低学年向けに行っている「子ども講座」を実践していただき、プライベートゾーンや、赤ちゃんができる仕組みについてなど、大人向けの解説を交えながら分かりやすくお話いただきました。子どもの年齢が低いほど、性の話にも抵抗感なく素直に受け入れてくれるそうです。

保護者の中には、「性のことを詳細に伝えたら、余計に興味を示し、悪影響になるのではないか」と心配される方もいるようですが、国連の調査によると、性教育を実施した世界 68 か国で、10 代の妊娠が減り、性感染症が減り、初めての性交渉年齢が上がったといわれています。正しい知識を得た子どもは性行動に対して慎重になり、想像や好奇心で行動したりせず、情報に振り回されることが減ると教えていただきました。



また、性加害者は、過去に性被害や虐待を受けた経験がある人が多いというお話がありました。「加害者を減らすためには、被害者を増やさないこと」という言葉が印象に残っています。自分の体の自己決定権は自分にあり、他の人に触れられた時には拒否できるということを、子どもたちにしっかりと伝えることが大切だと感じました。



◎ 9月13日 「大倉山小学校」の学習の様子です！

テーマ 『学んで安全！！ネチケット講座』
講師 web デザイナー 平吹 幸 先生

こども家庭庁の令和5年度インターネット利用状況調査によると、「インターネットを利用している」と回答した青少年は98.7%に達しているといわれています。平吹先生から「子どもたちをインターネットから遠ざけることは難しい時代です。子どもを守るために、親も学んでインターネットを上手に使うことを教えましょう。」とお話がありました。

安全にインターネットを利用するための具体的な事例として、アメリカのあるお母さんが作成した「18の約束」が紹介されました。子どもに最初にスマホを与える際に、18の約束事を記載した使用契約書を一緒に渡したといえます。

平吹先生に1つ1つの約束について具体例を挙げながら説明していただき、自分の家庭に取り入れたものはこのうちどれか、グループで話し合いが行われました。「人に面と向かって言えないことはスマホでも言わない」「友達の親の前で言えないようなことをメールしない」など、それぞれの考えを共有したうえで、平吹先生のご家庭で決めていた5つのルールについても教えていただきました。自分の家庭に合った、今の我が子に必要なルールについて、まず親が話し合っ素地を決め、それから子どもと話し合い、子どもも納得した上で決定すると良いといえます。「親も子も同じルールで」「使い方に問題があるときは話し合う、取り上げることはしない」といった平吹先生のルールに納得しました。



◎ 9月20日 「桑園小学校」の学習の様子です！

テーマ 『命の大切さを考える』

講師 北海道大学公共政策大学院准教授 武藤 俊雄 先生



最初に、今回の学習会のテーマについて、今までの自分の世界観や常識がひっくり返るような学びを提供したいという思いと、ロシアのウクライナ侵攻やガザの戦争、コロナ禍など、命について考えさせられる時代状況を踏まえて設定したと説明いただきました。その後の講座では、火葬の普及や学術研究についてなど、「命の大切さ・生と死を考える切り口」として、様々な視点からお話いただきました。

まず、「火葬の普及」について、土葬では大人数で行われていた葬儀が大幅に縮小し、さらに家族葬も増えていることから、子どもたちが死に直面する機会が減っているとお話がありました。子どもたちに命や死、ペットなど大事なものの別れをどう伝えているのかについて、学級生同士で共有する時間もありましたが、葬儀で遺体と対面するなど、人の死を身近に感じる場面があって初めて理解できるようになるのではないかという意見が出ていました。

次に、福岡伸一氏の動的平衡論や、リチャード・ドーキンスが提唱するセントラル・ドグマによる生命観、見田宗介氏のランナウェイ現象など、人間の体や遺伝子の捉えが変わる学術研究の成果について、わかりやすく解説いただきました。私自身、これまで生命にとっての食べ物は人間の体を動かすためのエネルギー、いわばガソリンとして利用されていると捉えていましたが、生化学者のシェーンハイマーの実験により、摂取した食べ物があらゆる場所で体の一部となっていることが判明したといえます。「食べたものが目になり、肉になり、それまで目や肉だったものは不要となって捨てられていく。生命は変わらない個体というより流体である。」という動的平衡論は新たな学びでした。

また、「急速に発達する人工知能を生命と認める日は来るか？」という話題提起のもと、アンドロイドを題材としたアニメ作品をご紹介いただきました。自分のことを埋葬して欲しいと考えたものの手によって作られたアンドロイドが命について学んでいき、やがて弔いの気持ちを持つことができたという内容だといえます。最も人間らしい営みとは、人を弔うことではないかと問いかける作品だと考えているとお話いただき、興味深い内容でした。

ほかにも、人口の7割以上が都会に住む現代のコミュニティについてお話しいただくなど、話題は多岐にわたっており、これからの人と人とのつながりや、コミュニティのあり方について考える機会にもなりました。



今年度も親育ち応援団オンライン講演会を実施します！

親育ち応援団オンライン講演会

自己肯定感を育てる
まほうのことば
～子育てで大切なたった1つのこと～
天野ひかりさん

公開期間：
2025年 1月10日(土) - 3月23日(日)

「さっぽろ家庭教育ナビ」
サイト内にて配信します。

さっぽろ家庭教育ナビ



NHK「すくすく子育て」キャスターとしての経験を生かし、子どもの自己肯定感を育てるコミュニケーションアドバイザーとして多方面でご活躍されている天野 ひかりさんを講師に迎え、標記講演会を実施します！

講演会に先立ち、10/31(木)までお悩み相談を募集していますので、天野さんに聞いてみたい質問がありましたら、ぜひこの機会にご応募ください！

※質問等にはいくつか選んでお答えいただく予定です。